



## 海洋ごみを「宝物」に変える、老舗メーカーとのサステナブル連携 大阪・関西万博で活躍したオーシャンバスケットをパーク内で活用開始



アドベンチャーワールド（和歌山県白浜町）では、創業130年を超える老舗工具箱メーカーである株式会社リングスター（営業本部：奈良県生駒市、代表取締役社長：唐金 吉弘 様）より、大阪・関西万博閉幕後の「万博備品リユース」の枠組みにおいて、同会場で活用された「対馬オーシャンプラスチックバスケット」200個を寄贈いただきました。

本製品は、長崎県対馬市の海洋ごみを再利用し、プロ仕様の耐久性を兼ね備えた革新的なプロダクトです。寄贈いただいたバスケットは、パーク内のギフトショップをはじめ、飼育現場など、アドベンチャーワールドのあらゆるシーンで活用いたします。本取り組みは、両社が掲げるSDGsへの意志を共鳴させ、未来の環境を守るための具体的な実践の一環です。

### 対馬オーシャンプラスチックバスケットとは

長崎県対馬市に漂着したオーシャン・プラスチックを10%配合した、「リサイクルなのにアウトドアで長く使える」バスケットです。

### 特徴1. プロ仕様の「圧倒的な耐久性」

アウトドア・インドア問わず、あらゆる場面をサポートする信頼の強さを誇ります。簡単に壊れないため、長く使い続けられる「相棒」のような道具を目指して開発されました。

### 特徴2. 多用途に使える「万能な収納力」

ハンドルを内側に倒すことで、中身を入れた製品同士をスタッキング可能です。おもちゃ箱やスポーツ用品の収納、買い物用のエコバスケットなど、デッドスペースを作らず多目的に活用できます。





## Tsushima Ocean Plasticプロジェクトの挑戦

「長く使える」ことが真のエコである。

この信念のもと、株式会社リングスターは、日本一の海ごみ漂着量を記録する長崎県対馬市の課題解決を目指す「TOP (Tsushima Ocean Plastic) プロジェクト」を推進しています。同社は、劣化により製品化が困難とされる海洋プラスチックを、長年培った技術でバージン材に10%配合する「黄金比率」を導き出し、プロ仕様の耐久性を維持したまま再資源化することに成功しました。

この「循環と再生」を前提とした製品づくりは、2026年2月時点で、海洋ごみ削減量1,583kg、対馬市への寄付金158万円を達成。大阪・関西万博の公式ショッピングバスケットにも採用されるなど、製造プロセスそのものが社会を良くするSDGsの新たなパラダイムシフトを提示しています。

## アドベンチャーワールドにおける活用について

寄贈いただいたバスケットは、「次世代へ引き継ぐ耐久性」という株式会社リングスターの想いと共に、パーク内の様々な場面で活躍しています。



### ・ギフトショップでのショッピングバスケット

万博会場での役割を引き継ぎ、ゲストの皆様が思い出の品を選ぶ際のショッピングバスケットとして活用。お買い物を通じて、海洋ごみ問題への関心を高めるきっかけを提供します。



### ・飼育・バックヤード

プロ用工具箱をルーツに持つ驚異的な頑丈さは、動物たちの食事の運搬や、日々のハードな飼育作業においても真価を発揮します。



### ・パークオペレーション

パークオペレーションを支える事務現場においても、書類の整理や備品の運搬などに幅広く利用し、スタッフ一人ひとりがサステナビリティを身近に感じる環境を構築します。

## 株式会社リングスターについて

1887年（明治20年）に大阪で創業したプロ用工具箱メーカー。独自の強化構造による高い品質を武器に、現在は釣具やキャンプ用品も展開。「次世代へ引き継ぐ」をコンセプトに、プラスチック工具箱メーカーの先駆者として、品質・耐久力・機能性に妥協をしないものづくりを提供し続けています。